



2013年5月14日

各位

会社名 日産化学工業株式会社  
代表者名 取締役社長 木下小次郎  
(コード番号 4021 東証第1部)  
問合せ先 経営企画部 主席 松岡健  
(TEL 03-3296-8320)

中期経営計画『Vista2015 Stage II』スタート  
－変革への挑戦、そして勝ち続ける企業へ－

当社グループは、2010年4月に6カ年の中期経営計画Vista2015を始動し、お客様とともに成長する「価値創造型企業」として、実力を高めるための取り組みを継続してまいりました。

前半3カ年のStage I (2010年度から2012年度)では、機能性材料および農薬における新製品の販売開始、将来の柱となる新材料開発の進展など一定の成果を獲得したことに加え、先を見据えて、研究インフラの充実、海外拠点の拡充を進めてまいりました。

引き続き、後半3カ年のStage II (2013年度から2015年度)を本年4月よりスタートいたしました。

Stage II では、コーポレートビジョンを「人類の生存と発展に貢献する企業」と定め、当社グループの商品・サービスを通して、社会に有用な価値を提供してまいります。また、2015年度のあるべき姿を「機能性材料(電子・無機・有機)とライフサイエンス(農薬・医薬)の2分野が成長牽引の両輪となり、化学品および関係会社が収益基盤を固めることで、成長力と安定感のある化学メーカーとしての地位を確立する」こととしております。

この実現に向け、機能性材料はデファクトスタンダード(事実上の標準)となる技術を確立し、最先端材料はもとより、世界のマーケットで支持される安価で十分な機能を備えた製品を供給すること、ライフサイエンスは、世界的な人口増加による食糧不足の解決を促す農薬、人類の生存に深くかかわる医薬を軸として、継続的に新剤を開発すること、化学品は競争力強化につながる施策を断行し、収益力を向上することに注力いたします。

## 1. 基本戦略

### (1) 新製品・新事業の創出

#### ① 事業

- 独自性の高い材料を開発し、新たなマーケットを形成することによる新事業の立ち上げ
- 市場ニーズに基づき事業部で開発を進めている新製品・新剤の戦力化
- 事業拡大のためのM&A、製品買収の推進

#### ② 研究

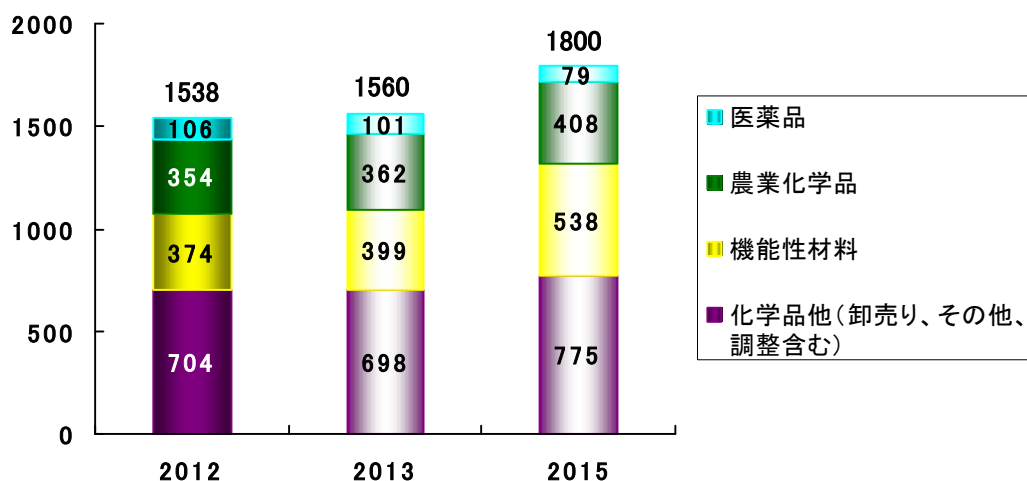
- 当社のコア技術である「精密有機合成」、「微粒子制御」、「機能性高分子設計」、「生物評価」を最大限に発揮するための研究体制構築
- オープンイノベーション(組織の枠組みを越えた知識・技術の結集)などによる先端技術の導入
- 売上高研究開発費比率9%の確保、および3年間の研究開発費として総額475億円(前3カ年比76億円増)の投下

### (2) 事業の構造改革推進

- ① すべての工場において、製造プロセスの効率化・高度化、より安価な原料への切り替え、原材料調達先の複数化を実施することによる競争力向上
- ② 成長する海外マーケットを見据えた事業基盤の強化・拡充
- ③ 厳しさを増す業界動向を見極めたうえでの同業とのアライアンス

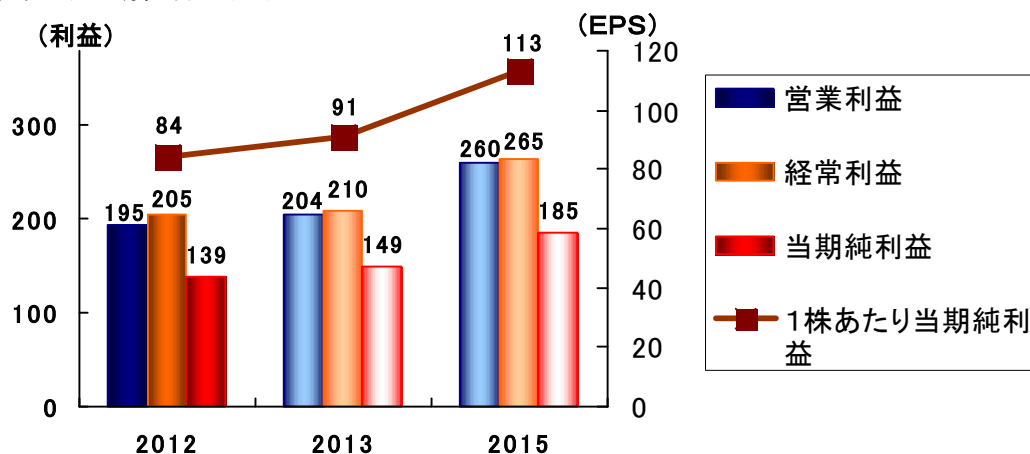
## 2. 数値目標

### (1) 売上高(億円)

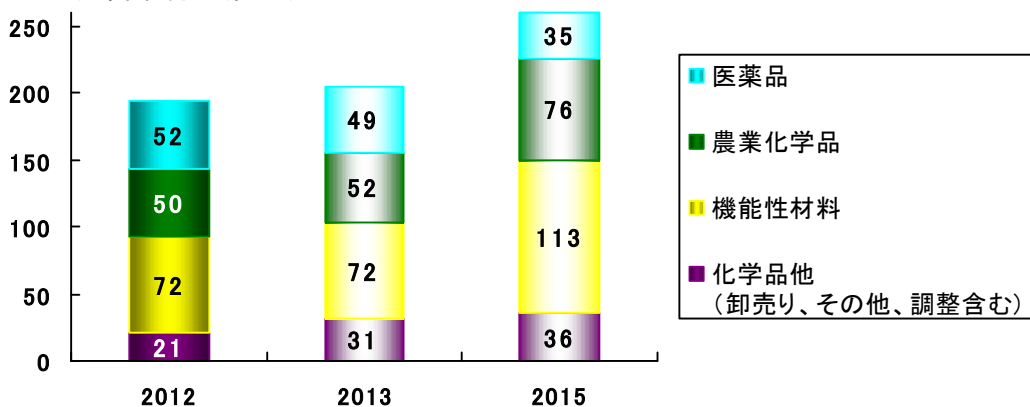


### (2) 営業利益・経常利益・当期純利益(億円)

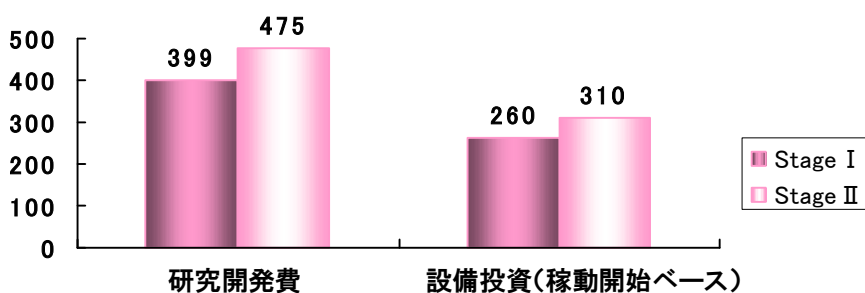
1株あたり当期純利益(円)・・・EPS



### (3) セグメント別営業利益(億円)



### (4) 研究開発費・設備投資(3年間累計、億円)



### 3. Stage IIにおける成長の源泉

#### (1) 化学品

- ① 高純度液安、高品位尿素水、電子材料用テピックなど成長分野向け製品の拡販
- ② 製法転換をはじめとする抜本的な構造改革による製造コスト引き下げ

#### (2) 機能性材料

- ① 液晶ディスプレイの高精細化などに求められる新配向技術に対応した先端材料
- ② 半導体の微細化に伴い需要が伸長する多層材料
- ③ スノーテックス(電子材料用研磨剤、各種表面処理剤等)の用途拡大
- ④ 有機EL用ホール注入材の拡販

#### (3) 農業化学品

- ① 新規水稲用除草剤アルテアの本格販売
- ② ラウンドアップマックスロードAL(一般家庭向け、非選択性茎葉除草剤)の販路拡大
- ③ 動物薬分野への参入

#### (4) 医薬品

- ① リバロ(高コレステロール血症治療薬)原薬の海外販売拡大
- ② 結晶形特許(2013年1~2月成立)によるジェネリック品に対するリバロ国内販売の防衛
- ③ 次期候補剤(疼痛、リウマチ治療薬)の導出

### 4. 2016年度以降に向けた取り組み

#### (1) 材料

- ① ハイパーブランチポリマー(多分岐型有機ナノ粒子)の幅広い分野での用途開拓
- ② 半導体のさらなる高集積化に対応した3次元実装材料およびEUV材料の実需化
- ③ フレキシブルディスプレイ用材料の開発

#### (2) ライフサイエンス

- ① ナノファイバージェル(超分子ゲル)の化粧品分野での上市、医薬部外品および医療添加剤としての展開
- ② がん細胞、肝細胞の3次元培養培地の販売に加え、医療材料分野での材料開発
- ③ 新規殺虫剤の安全性試験および製造技術開発、新たな水稲用除草剤および殺菌剤の開発
- ④ NIP-022(血小板減少症治療薬)、NT-702(喘息治療薬、間欠性跛行)、次期候補剤(疼痛、リウマチ、糖尿病治療薬)の開発
- ⑤ 自社ライブラリおよび合成力活用による医薬メーカーとの共同創薬推進

#### (3) 研究開発

- ① 先端材料創出を加速するための先端材料研究棟の建設
- ② 機能性材料とライフサイエンスの融合による新製品開発

### 5. 経営指標

- (1) 高付加価値品の拡販、製品の損益分岐点引き下げにより、**売上高営業利益率**を高めます。  
2012年度実績12.7% **2015年度目標14.4%**
- (2) 企業の収益力を示す**ROE**を重要視し、株主資本を最大限に活用します。  
2012年度実績11.4% **2015年度目標13.4%**
- (3) 成長の原動力である研究開発に経営資源を傾斜配分します。  
**売上高研究開発比率** 2012年度実績8.9% **2015年度目標9.6%**
- (4) 自己株式取得を含めた機動的資本政策、株主への積極的な利益還元策を実施し、**配当性向30%以上**を維持します。

当社グループは、本計画の基本戦略に基づく諸施策を着実に実行し、2007年度の過去最高営業利益248億円を早期に更新したうえで、次のステージに向かってまい進してまいります。

以上